

# 世界遺産や日本遺産を契機に飛躍の年に

佐世保市長 朝長 則男



多のクルーズ客船が寄港したこと、ハウステンボスの運営が順調に推移されたことなどから、国内外から多くの観光客の皆さまに訪れていただき、大変にぎわった1年であったように思います。

を代表する方々からなる「佐世保市地方創生推進協議会」を設立し、本市の長期的な施策や官民連携した取り組みの方向性を示す「佐世保市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を10月に策定することができました。

明けましておめでとうございます。輝かしい平成28年の初春をご家族おそろいで健やかに迎えになりましたことを心からお慶び申し上げます。昨年は佐世保市政に対し、それぞれのお立場から温かいご支援やご協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。昨年を振り返りますと、西海国立公園が指定60周年の記念すべき年であったことや、佐世保港国際ターミナル「葉港テラス」が供用開始し過去最

小佐々町に造成した佐世保工業団地「ウエストテクノ佐世保」には、念願であった3社の企業に立地を決定していただきました。うち1社については本年春には本格操業を開始され、他の企業におかれても計画に沿った円滑な操業開始を目指し、工場建設や社員募集などを進めていただいているところであります。

人口減少と少子高齢社会を見据えた「地方創生」への対応については、本市の「産・学・官・金・労・言・民・福

市外・県外の皆さまに本市を応援していただく「ふるさと納税」(キラッと都佐世保応援寄附金)については、昨年4月に制度を拡充したところ、12月初旬までに11億円を超える寄附が寄せられ、返礼品としてお贈りしている地元物産の振興にも大きく寄与していただきました。寄附をいただいた全国の佐世保ファンの皆さまに心からお礼を申し上げますとともに、本年もまたご厚意を賜りますようお願い申し上げます。

さて、ことしの佐世保市は4月に「中核市」に移行し、名実共に西九州北部地域の中心都市として、新たな歩みを始めます。

佐世保市立総合病院については、日進月歩の医学の進歩や医療制度に柔軟に対応するため、4月に「地方独立行政法人佐世保市総合医療センター」へと移行し、市民の皆さまのニーズにより応えられる医療機関として新たにスタートいたします。

本県初開催となる「第29回全国健康福祉祭ながさき大会(愛称ねんりんピック長崎2016)」については、10月15日から4日間の日程で開催され、本市ではテニス、太極拳、ダンススポーツの3種目を開催します。全国から多くの選手や関係者、応援の皆さまをお迎えしますので、一昨年の「長崎がんばらば国体・長崎がんばらば大会」と同様に、市民の皆さまのおもてなしとご協力をよろしくお願いたします。

観光関係の大きな話題としては、

「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」が、ユネスコの「世界遺産」(歴史文化遺産)として本年夏ごろに審議される予定となっております。世界遺産の登録により、本市の「黒島天主堂」が構成資産の一つとして大きく注目され、新たな観光資源として多くの皆さまが訪問されますことを期待しています。

このほか本市では、横須賀市、呉市、舞鶴市と連携し、「旧軍港4市の近代化遺産」を文化庁の「日本遺産」に申請することとしています。認定されると、夏ごろまでには本市において新たに日本遺産が誕生することになりますので、4月にリニューアルオープンする市民文化ホール(旧海軍佐世保鎮守府凱旋記念館)や針尾無線塔、赤煉瓦倉庫群など、本市の近代化遺産を新たな観光資源として地域活性化につなげていきたいと思えます。

本年はこのほかにもさまざまな行事がめじろ押しですが、佐世保市政の重要課題である前畑弾薬庫の移

転・返還をはじめとする「新返還6項目」、ならびに自衛隊による崎辺地区の利活用を基調とした港のすみ分けの早期実現、前畑崎辺道路の早期着工、石木ダムの早期建設、子ども医療費の負担軽減などにも積極的に取り組んでまいりたいと思えます。

そして、昨年策定しました「佐世保市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の実施に併せ、これまで取り組んできた「佐世保市総合計画」の3つの重点プロジェクト(成長戦略プロジェクト、安全・安心なまちプロジェクト、地域の絆プロジェクト)についても全力で推進してまいります。市民の皆さまには、これまで同様にご指導とご協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

本年が市民の皆さまに取りまして素晴らしい1年になりますよう心から祈念申し上げます。年頭のあいさついたします。

※写真は「高島番岳展望台」から望む朝日